

男子戦評

大会名 第66回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日 時 平成25年11月9日～10日

会 場 青森市民体育館

男子決勝（11月10日）

五所川原工業高等学校	3	$\left\{ \begin{array}{l} 18-25 \\ 27-25 \\ 25-23 \\ 25-20 \end{array} \right.$	1	弘前工業高等学校
------------	---	---	---	----------

ファーストレフリース	<u>津嶋由香</u>
セカンドレフリース	<u>晴山雅紀</u>

2年連続6回目の選手権大会出場を目指す五所川原工業高等学校（以下五工）と2年ぶり37回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）との対戦。第1セット序盤は、両チームとも得点を重ねシーソーゲームが展開される。中盤、弘工は仲谷のクイック、小笠原のサーブでリードを広げ、最後は松澤のスパイクが決まり、第1セットは弘工が18-25で先取する。第2セット序盤、五工は工藤(巧)のサーブ、対馬のクイックでリードする。弘工は大里のサーブ、松澤のスパイクで追い付く。デュースまでもつれた展開は、最後を五工の工藤(巧)が決めて、第2セットは27-25で五工が得る。第3セット、弘工は小笠原のサーブ、松澤のブロックでリードする。五工は、秋元や、工藤(巧)のスパイク、加藤のクイックで追い上げる。中盤五工は、エース工藤(巧)のバックアタックや黒滝のブロックで追いつき、秋元のブロックで逆転する。弘工はキャプテン松澤、大里を中心に攻めるが、最後まで五工の工藤(巧)が決め、3セット目も五工が連取する。第4セット序盤、五工は黒滝の時間差攻撃、対馬や工藤(巧)のブロックでリードする。後が無くなった弘工は、大里のレフト攻撃や仲谷のフェイントで追い付く。しかし、五工はエース工藤(巧)のバックアタック、黒滝のライト攻撃で得点を重ね再びリードし、主導権を握る。五工はその後秋元のサービスエースや工藤(巧)のスパイクでリードを広げる。弘工は、仲谷の一人時間差攻撃やブロック、大里のライト攻撃で追い上げを見せるが、最後は五工エース工藤(巧)がレフトからスパイクを決め25-20となり、セットカウント3-1で五所川原工業高校が2年連続6回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 堀内 将雄